

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成22年10月21日 (2010.10.21)

【公開番号】特開2008-105016(P2008-105016A)

【公開日】平成20年5月8日 (2008.5.8)

【年通号数】公開・登録公報2008-018

【出願番号】特願2007-233668(P2007-233668)

【国際特許分類】

B 0 1 D 71/34 (2006.01)

B 0 1 D 69/08 (2006.01)

D 0 1 F 6/04 (2006.01)

D 0 1 F 6/12 (2006.01)

【F I】

B 0 1 D 71/34

B 0 1 D 69/08

D 0 1 F 6/04 C

D 0 1 F 6/12 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年9月3日 (2010.9.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱誘起相分離法あるいは非溶媒誘起相分離法により製造された、ポリフッ化ビニリデン系樹脂からなる中空系膜を、該中空系膜の融点を T_m としたとき、 $T_m - 40 < T < T_m$ を満たす温度 T で熱処理することを特徴とするポリフッ化ビニリデン系樹脂からなる中空系膜の製造方法。

【請求項 2】

前記熱処理時の中空系膜の長さ方向の収縮率を 5 % 以上 25 % 以下とする請求項 1 に記載の中空系膜の製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】中空系膜の製造方法

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

上記課題を解決するための本発明は、

(1) 熱誘起相分離法あるいは非溶媒誘起相分離法により製造された、ポリフッ化ビニリデン系樹脂からなる中空系膜を、該中空系膜の融点を T_m としたとき $T_m - 40 < T$

< T mを満たす温度 Tで熱処理することを特徴とするポリフッ化ビニリデン系樹脂からなる中空系膜の製造方法。

(2) 前記熱処理時の中空系膜の長さ方向の収縮率を 5 % 以上 2 5 % 以下とする (1) に記載の中空系膜の製造方法。

により構成される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 7】

(実施例 5)

延伸後の中空系膜を、無緊張状態で、熱風により雰囲気を 1 6 0 にした乾熱雰囲気中に静置させて、長さ方向に収縮率 1 8 % で収縮させた以外は実施例 2 と同様にした。得られた中空系膜の性能を表 1 に示す。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 8】

(実施例 6)

延伸後の中空系膜を、無緊張状態で、熱風により雰囲気を 1 4 0 にした乾熱雰囲気中に静置させて、長さ方向に収縮率 1 7 % で収縮させた以外は実施例 2 と同様にした。得られた中空系膜の性能を表 1 に示す。